

1 ○[文210]放物線の接線の係数の存在範囲,面積の最小値と係数決定[2000 数学I ⅡAB(文理)210]

a, b を実数とする. xy 平面上で, 直線 $l: y = ax + b$ は曲線 $C: y = (x+1)(2-x)$ と, x 座標が $0 \leq x \leq 2$ を満たす点で接しているとする.

- (1) このときの点 (a, b) の存在範囲を求め, ab 平面上に図示せよ.
- (2) 曲線 C および 3 つの直線 $l, x=0, x=2$ で囲まれた図形の面積を最小にする a, b の値と, このときの面積を求めよ.

解説

(1) $ax + b = (x+1)(2-x)$ とおくと $x^2 + (a-1)x + b - 2 = 0 \dots\dots ①$

この方程式の判別式を D とすると $D = (a-1)^2 - 4(b-2)$

l と C が接するとき, $D=0$ であるから $(a-1)^2 - 4(b-2) = 0$

よって $b = \frac{1}{4}(a-1)^2 + 2$

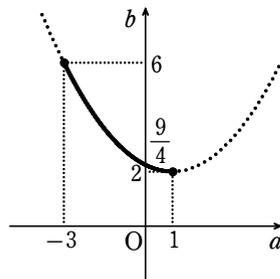
このとき, ①の重解は $x = -\frac{a-1}{2}$

これが $0 \leq x \leq 2$ を満たすから $0 \leq -\frac{a-1}{2} \leq 2$

ゆえに $-3 \leq a \leq 1 \dots\dots ②$

したがって, 点 (a, b) の存在範囲は

放物線 $b = \frac{1}{4}(a-1)^2 + 2$ の $-3 \leq a \leq 1$ の部分. [図]



- (2) $0 \leq x \leq 2$ において $ax + b \geq (x+1)(2-x)$ であるから, C と 3 直線で囲まれた図形の面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^2 \{(ax+b) - (x+1)(2-x)\} dx \\ &= \int_0^2 \{x^2 + (a-1)x + b - 2\} dx \\ &= \left[\frac{x^3}{3} + \frac{a-1}{2}x^2 + (b-2)x \right]_0^2 \\ &= 2a + 2b - \frac{10}{3} \\ &= 2a + 2\left\{ \frac{1}{4}(a-1)^2 + 2 \right\} - \frac{10}{3} \\ &= \frac{1}{2}a^2 + a + \frac{7}{6} \\ &= \frac{1}{2}(a+1)^2 + \frac{2}{3} \end{aligned}$$

よって, ②の範囲で S は $a = -1$ のとき最小値 $\frac{2}{3}$ をとる.

また, $a = -1$ のとき $b = 3$

2 ●[理242]座標空間内の立方体の影の面積[2000 数学I ⅡAB(理)242]

座標空間内の 6 つの平面 $x=0, x=1, y=0, y=1, z=0, z=1$ で囲まれた立方体を C とする. $\vec{l} = (-a_1, -a_2, -a_3)$ を $a_1 > 0, a_2 > 0, a_3 > 0$ を満たし, 大きさが 1 のベクトルとする. H を原点 O を通りベクトル \vec{l} に垂直な平面とする.

このとき, ベクトル \vec{l} を進行方向にもつ光線により平面 H に生じる立方体 C の影の面積を, a_1, a_2, a_3 を用いて表せ. ここに, C の影とは C 内の点から平面 H へ引いた垂線の足全体のなす図形である.

解説

右図のように, 頂点 P, Q, R, S, T, U, V を定める. 3 つの四角形 $OPQR, OPTS, ORVS$ を L, M, N とする.

座標空間内の点 X の光線の影を X_1 とすると $\overrightarrow{XX_1} = t\vec{l}$ (t は実数) と表される.

よって $\overrightarrow{OX_1} = \overrightarrow{OX} + t\vec{l} \dots\dots ①$

また, $\overrightarrow{OX_1} \perp \vec{l}$ から $\overrightarrow{OX_1} \cdot \vec{l} = 0$

これに ① を代入すると $\overrightarrow{OX} \cdot \vec{l} + t|\vec{l}|^2 = 0$

$|\vec{l}| = 1$ であるから $t = -\overrightarrow{OX} \cdot \vec{l}$

① に代入すると $\overrightarrow{OX_1} = \overrightarrow{OX} - (\overrightarrow{OX} \cdot \vec{l})\vec{l}$

よって $\overrightarrow{OP_1} = \overrightarrow{OP} - (\overrightarrow{OP} \cdot \vec{l})\vec{l} = (1, 0, 0) + a_1\vec{l} = (1 - a_1^2, -a_1a_2, -a_1a_3)$

同様にして $\overrightarrow{OR_1} = (-a_1a_2, 1 - a_2^2, -a_2a_3)$

L の影 L_1 は, 2 辺 OP_1, OR_1 を隣辺とする平行四辺形であるから, その面積 A は

$$A = \sqrt{|\overrightarrow{OP_1}|^2 |\overrightarrow{OR_1}|^2 - (\overrightarrow{OP_1} \cdot \overrightarrow{OR_1})^2}$$

ここで

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OP_1}|^2 &= (1 - a_1^2)^2 + (-a_1a_2)^2 + (-a_1a_3)^2 \\ &= 1 - 2a_1^2 + a_1^2(a_2^2 + a_3^2) \\ &= 1 - a_1^2 \end{aligned}$$

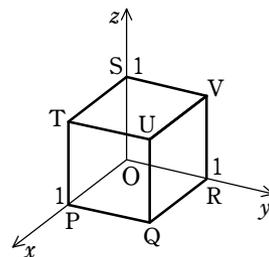
同様にして $|\overrightarrow{OR_1}|^2 = 1 - a_2^2$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OP_1} \cdot \overrightarrow{OR_1} &= (1 - a_1^2)(-a_1a_2) + (-a_1a_2)(1 - a_2^2) + (-a_1a_3)(-a_2a_3) \\ &= a_1a_2(-2 + a_1^2 + a_2^2 + a_3^2) \\ &= -a_1a_2 \end{aligned}$$

ゆえに $A = \sqrt{(1 - a_1^2)(1 - a_2^2) - (-a_1a_2)^2}$
 $= \sqrt{1 - a_1^2 - a_2^2} = \sqrt{a_3^2} = a_3$

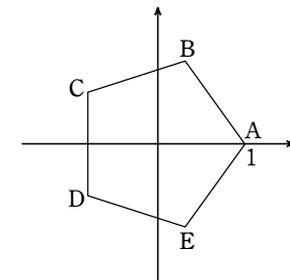
同様にして, M, N の影の面積はそれぞれ a_2, a_1

よって, 求める面積は $a_1 + a_2 + a_3$



3 ○[文250]正五角形の中点が満たす方程式の証明と解[2000 数学I ⅡAB(文理)250]

複素数平面上に, 図のような原点を中心とする正五角形 $ABCDE$ がある. ここで, 頂点 A が表す複素数は 1 である. 2 頂点 C, D の中点を F とし, 点 F が表す複素数を h とする.



- (1) h が $4h^2 + 2h - 1 = 0$ を満たすことを示せ.
- (2) h を求めよ.

解説

原点を O とすると $\angle AOB = \angle BOC = \angle COD = \frac{360^\circ}{5} = 72^\circ$

- (1) B が表す複素数を α とすると $\alpha = \cos 72^\circ + i \sin 72^\circ \dots\dots ①$

C, D が表す複素数は, それぞれ α^2, α^3

よって $h = \frac{\alpha^2 + \alpha^3}{2}$

また, ① から $\alpha^5 = \cos 360^\circ + i \sin 360^\circ = 1$

ゆえに $\alpha^5 - 1 = 0$

すなわち $(\alpha - 1)(\alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1) = 0$

$\alpha \neq 1$ であるから $\alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1 = 0$

このとき

$$\begin{aligned} 4h^2 + 2h - 1 &= 4\left(\frac{\alpha^2 + \alpha^3}{2}\right)^2 + 2 \cdot \frac{\alpha^2 + \alpha^3}{2} - 1 \\ &= (\alpha^4 + 2\alpha^5 + \alpha^6) + \alpha^2 + \alpha^3 - 1 \\ &= \alpha^4 + 2 + \alpha + \alpha^2 + \alpha^3 - 1 \\ &= \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1 \\ &= 0 \end{aligned}$$

- (2) $4h^2 + 2h - 1 = 0$ から $h = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{4}$

$h < 0$ であるから $h = \frac{-1 - \sqrt{5}}{4}$

4 ●[理260]3次方程式の解の等式と三角形の形状から実数係数の組[2000 数学 I II A B (理)260]

実数を係数とする3次方程式 $x^3 + px^2 + qx + r = 0$ は、相異なる虚数解 α, β と実数解 γ をもつとする。

- $\beta = \bar{\alpha}$ が成り立つことを証明せよ。ここで、 $\bar{\alpha}$ は α と共役な複素数を表す。
- α, β, γ が等式 $\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = 3$ を満たし、更に複素数平面上で α, β, γ を表す3点は1辺の長さが $\sqrt{3}$ の正三角形をなすものとする。このとき、実数の組 (p, q, r) をすべて求めよ。

解説

- α が $x^3 + px^2 + qx + r = 0$ の解であるから $\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r = 0$

$$\begin{aligned} \text{このとき } \bar{\alpha}^3 + p\bar{\alpha}^2 + q\bar{\alpha} + r &= \overline{\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r} \\ &= \overline{\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r} = \bar{0} = 0 \end{aligned}$$

$\beta \neq \alpha$ であるから $\beta = \bar{\alpha}$ が成り立つ。

- $\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = 3$ から $q = 3$

複素数平面上において、 γ を表す点は実軸上にあり、 α, β を表す2点は実軸に関して対称な位置にある。

ここで、 α の虚部を正、 β の虚部を負とする。

α, β, γ を表す3点は1辺の長さが $\sqrt{3}$ の正三角形をなすから

$$(\alpha, \beta) = \left(\gamma + \frac{3}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \gamma + \frac{3}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) \dots\dots ①$$

または

$$(\alpha, \beta) = \left(\gamma - \frac{3}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \gamma - \frac{3}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) \dots\dots ②$$

と表される。

①のとき

$\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = 3$ から $\alpha\bar{\alpha} + \gamma(\alpha + \bar{\alpha}) - 3 = 0$

$$\text{よって } \left(\gamma + \frac{3}{2} \right)^2 + \frac{3}{4} + \gamma(2\gamma + 3) - 3 = 0$$

ゆえに $\gamma = 0, -2$

$$p = -(\alpha + \beta + \gamma) = -(3\gamma + 3),$$

$$r = -\alpha\beta\gamma = -(\gamma^2 + 3\gamma + 3)\gamma \text{ から } (p, q, r) = (-3, 3, 0), (3, 3, 2)$$

②のとき

$$\text{①のときと同様に考えて } \left(\gamma - \frac{3}{2} \right)^2 + \frac{3}{4} + \gamma(2\gamma - 3) - 3 = 0$$

ゆえに $\gamma = 0, 2$

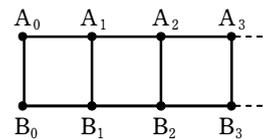
$$p = -(\alpha + \beta + \gamma) = -(3\gamma - 3),$$

$$r = -\alpha\beta\gamma = -(\gamma^2 - 3\gamma + 3)\gamma \text{ から } (p, q, r) = (3, 3, 0), (-3, 3, -2)$$

以上から $(p, q, r) = (-3, 3, 0), (3, 3, 2), (3, 3, 0), (-3, 3, -2)$

5 ●[理289]平面上の梯子状の図形上の動点と確率[2000 数学 I II A B (理)289]

図のように、平面上に点 A_0, A_1, A_2, \dots 、および B_0, B_1, B_2, \dots が並んでいる。点 P は A_0 から出発し、次の規則に従いこれらの点の上を移動する。



P が A_n にいるときには1秒後に A_{n+1} または B_n に、一方 B_n にいるときには B_{n+1} または A_n に移動する。

ただし、前にいた点には戻らない。また、P が移動しうる点が複数あるときには、それぞれの点へ等確率で移動する。

P が A_n へ到る行き方が a_n 通り、 B_n へ到る行き方が b_n 通りあるとする。

- a_3, b_3 を求めよ。
- a_n, b_n を求めよ。
- 一方、点 Q は A_8 から P と同時に出発し、1秒ごとに順次

$A_8 \rightarrow A_7 \rightarrow A_6 \rightarrow \dots \rightarrow A_0$ と移動し、その後は A_0 にとどまる。P と Q が出会う確率を求めよ。

解説

- A_3 へ到る行き方は、

線分 A_0A_1, B_0B_1 のいずれか一方を通り、

線分 A_1A_2, B_1B_2 のいずれか一方を通り、

線分 A_2A_3, B_2B_3 のいずれか一方を通る。

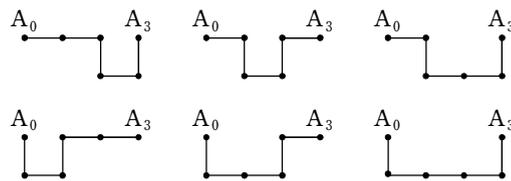
$$\text{よって } a_3 = 2^3 = 8$$

また、 B_3 へ到る行き方も同様に考えて $b_3 = 2^3 = 8$

- (1) から $a_n = b_n = 2^n$
- 出会う点は A_3 または A_4 である。

$$A_4 \text{ で出会う確率は } \left(\frac{1}{2} \right)^4 = \frac{1}{16}$$

A_3 で出会うときの A_3 までの行き方は



であるから、 A_3 で出会う確率は

$$\begin{aligned} &\left(\frac{1}{2} \right)^3 \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} + \left(\frac{1}{2} \right)^2 \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 + \left(\frac{1}{2} \right)^2 \cdot 1 \cdot \left(\frac{1}{2} \right)^2 \\ &+ \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \left(\frac{1}{2} \right)^2 \cdot 1 + \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \left(\frac{1}{2} \right)^3 \\ &= \frac{9}{16} \end{aligned}$$

$$\text{よって、求める確率は } \frac{1}{16} + \frac{9}{16} = \frac{5}{8}$$

6 ○ [3C12] 双曲線と直線. 1点で交わる, 2交点の中点の軌跡が双曲線 [2000 数学Ⅲ C 12]

座標平面上に, 双曲線 $C: x^2 - y^2 = 1$ と点 $A(2, 0)$ がある.

- 点 A を通り双曲線 C と 1 点のみで交わる直線を求めよ.
- 直線 l が点 A を通り双曲線 C と相異なる 2 点で交わるように動くとき, この 2 点の中点は, あるひとつの双曲線上にあることを示せ.

解説

- 直線 $x=2$ は 2 点で交わるから適さない.

ゆえに, 求める直線は $y=m(x-2)$ とおける.

$$x^2 - y^2 = 1 \text{ から } x^2 - m^2(x-2)^2 = 1$$

$$\text{よって } (1-m^2)x^2 + 4m^2x - 4m^2 - 1 = 0 \dots\dots ①$$

$1-m^2 \neq 0$ かつ $D/4 = 3m^2 + 1 = 0$ を満たす m は存在しないから, ① がただ 1 つの解をもつ条件は

$$1-m^2=0 \text{ かつ } 4m^2 \neq 0 \text{ から } m = \pm 1$$

したがって, 求める直線は $y = \pm(x-2)$

- 2 交点の中点を $M(X, Y)$ とおく.

[1] $l: x=2$ のとき $M(2, 0)$ となる.

[2] $l: y=m(x-2)$ のとき

① の解を $x=\alpha, \beta$ とする. (ただし, $m \neq \pm 1$)

$$X = \frac{\alpha + \beta}{2} = \frac{2m^2}{m^2 - 1} \dots\dots ②, \quad Y = m(X-2) \dots\dots ③$$

$X=2$ とすると, ② から $2m^2 - 2 = 2m^2$ となり, 適さない.

$$\text{ゆえに, } X \neq 2 \text{ であるから, ③ より } m = \frac{Y}{X-2}$$

$$\text{よって, ② から } \left\{ \left(\frac{Y}{X-2} \right)^2 - 1 \right\} X = 2 \left(\frac{Y}{X-2} \right)^2$$

$$\text{したがって } Y^2(X-2) - X(X-2)^2 = 0$$

$$X \neq 2 \text{ であるから } Y^2 - X(X-2) = 0$$

$$\text{ゆえに } (X-1)^2 - Y^2 = 1 \text{ ただし } X \neq 2$$

[1], [2] から, 中点 M は双曲線 $(x-1)^2 - y^2 = 1$ 上にある.

別解 (1) 点 $A(2, 0)$ を通り双曲線 $x^2 - y^2 = 1$ と 1 点のみで交わる直線は, 漸近線に平行である.

7 ● 曲線(対数)と接線と $x=0$ と $x=e-1$ の面積の最小 [2000]

e は自然対数の底, \log は自然対数を表す. 実数 a, b に対して, 直線 $l: y=ax+b$ は曲線 $C: y=\log(x+1)$ と, x 座標が $0 \leq x \leq e-1$ を満たす点で接しているとする.

- このとき, 点 (a, b) の存在範囲を求め, ab 平面上に図示せよ.
- 曲線 C および 3 つの直線 $l, x=0, x=e-1$ で囲まれた図形の面積を最小にする a, b の値と, このときの面積を求めよ.

解説

$$(1) y = \log(x+1) \text{ から } y' = \frac{1}{x+1}$$

曲線 C 上の点 $(t, \log(t+1))$ における接線の方程式は

$$y - \log(t+1) = \frac{1}{t+1}(x-t) \text{ すなわち } y = \frac{1}{t+1}x - \frac{t}{t+1} + \log(t+1)$$

これが直線 l に一致すると考えると

$$a = \frac{1}{t+1}, \quad b = -\frac{t}{t+1} + \log(t+1), \quad 0 \leq t \leq e-1$$

が成り立つ.

$$\text{このとき } b = \frac{1}{t+1} - 1 - \log \frac{1}{t+1} = a - \log a - 1$$

$$\text{また, } 0 \leq t \leq e-1 \text{ から } 1 \leq t+1 \leq e \text{ よって } \frac{1}{e} \leq \frac{1}{t+1} \leq 1$$

ゆえに, 点 (a, b) の存在範囲は, 曲線 $b = a - \log a - 1$ の $\frac{1}{e} \leq a \leq 1$ の部分である.

$$\text{ここで } b' = 1 - \frac{1}{a} = \frac{a-1}{a}, \quad b'' = \frac{1}{a^2}$$

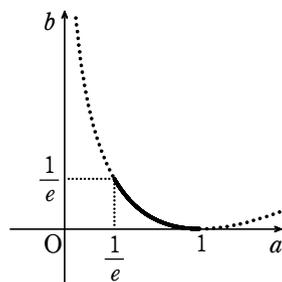
$$\frac{1}{e} \leq a \leq 1 \text{ のとき } b' \leq 0$$

また $b'' > 0$

よって, $\frac{1}{e} \leq a \leq 1$ において, b は単調に減少し, 曲

線は下に凸である.

ゆえに, 点 (a, b) の存在範囲は右図の実線部分のようになる.



- 曲線 C および 3 つの直線 $l, x=0, x=e-1$ で囲まれた図形の面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{e-1} \{ax + b - \log(x+1)\} dx \\ &= \left[\frac{a}{2}x^2 + bx - (x+1)\log(x+1) + x \right]_0^{e-1} \\ &= \frac{a}{2}(e-1)^2 + b(e-1) - e + e - 1 \\ &= \frac{a}{2}(e-1)^2 + b(e-1) - 1 \end{aligned}$$

ところで, $b = a - \log a - 1$ であるから

$$\begin{aligned} S &= \frac{a}{2}(e-1)^2 + (a - \log a - 1)(e-1) - 1 \\ &= \frac{e^2-1}{2}a - (e-1)\log a - e \end{aligned}$$

$$\text{ゆえに } \frac{dS}{da} = \frac{e^2-1}{2} - \frac{e-1}{a} = \frac{(e-1)\{(e+1)a-2\}}{2a}$$

$$\frac{dS}{da} = 0 \text{ とすると } a = \frac{2}{e+1}$$

よって, $\frac{1}{e} \leq a < 1$ における S の増減表は次のようになる.

a	$\frac{1}{e}$...	$\frac{2}{e+1}$...	1
$\frac{dS}{da}$		-	0	+	
S		↘	極小	↗	

ゆえに, $a = \frac{2}{e+1}$ のとき, S は極小かつ最小となる.

$$\text{このとき } b = \frac{2}{e+1} - \log \frac{2}{e+1} - 1 = \log \frac{e+1}{2} - \frac{e-1}{e+1}$$

$$S = \frac{e^2-1}{2} \cdot \frac{2}{e+1} - (e-1)\log \frac{2}{e+1} - e = (e-1)\log \frac{e+1}{2} - 1$$

以上により, $a = \frac{2}{e+1}, b = \log \frac{e+1}{2} - \frac{e-1}{e+1}$ のとき S は

最小値 $(e-1)\log \frac{e+1}{2} - 1$ をとる.

8 ● $0 \leq a \leq 2b \leq c \leq n$ を満たす整数の組 (a, b, c) の個数. $n=5$, 奇数 [2000]

自然数 n に対して, 不等式 $0 \leq a \leq 2b \leq c \leq n$ を満たす整数の組 (a, b, c) の個数を $P(n)$ とする.

- (1) $P(5)$ を求めよ.
- (2) 奇数 n に対して, $P(n)$ を求めよ.

解説

- (1) $0 \leq a \leq 2b \leq c \leq 5 \dots \dots$ ① とする.

$0 \leq 2b \leq 5$ で, b は整数であるから $b = 0, 1, 2$

[1] $b = 0$ のとき, $0 \leq a \leq 2 \cdot 0$ を満たす整数 a は $a = 0$ の 1 個ある.

また, $2 \cdot 0 \leq c \leq 5$ を満たす整数 c は $c = 0, 1, 2, 3, 4, 5$ の 6 個ある.

よって, $b = 0$ のとき不等式 ① を満たす整数の組は $1 \times 6 = 6$ (個) ある.

[2] $b = 1$ のとき, $0 \leq a \leq 2 \cdot 1$ を満たす整数 a は $a = 0, 1, 2$ の 3 個ある.

また, $2 \cdot 1 \leq c \leq 5$ を満たす整数 c は $c = 2, 3, 4, 5$ の 4 個ある.

よって, $b = 1$ のとき不等式 ① を満たす整数の組は $3 \times 4 = 12$ (個) ある.

[3] $b = 2$ のとき, $0 \leq a \leq 2 \cdot 2$ を満たす整数 a は $a = 0, 1, 2, 3, 4$ の 5 個ある.

また, $2 \cdot 2 \leq c \leq 5$ を満たす整数 c は $c = 4, 5$ の 2 個ある.

よって, $b = 2$ のとき不等式 ① を満たす整数の組は $5 \times 2 = 10$ (個) ある.

以上より $P(5) = 6 + 12 + 10 = 28$

- (2) n が奇数のとき $n = 2k - 1$ (k は自然数) とおける.

$0 \leq 2b \leq 2k - 1$ から $0 \leq b \leq k - \frac{1}{2}$

b, k は整数であるから $0 \leq b \leq k - 1$

$b = b'$ ($0 \leq b' \leq k - 1$) のとき, $0 \leq a \leq 2b'$ を満たす整数 a の個数は

$$2b' - 0 + 1 = 2b' + 1 \text{ (個)}$$

また, $2b' \leq c \leq 2k - 1$ を満たす整数 c の個数は

$$(2k - 1) - 2b' + 1 = 2(k - b') \text{ (個)}$$

よって $P(n) = \sum_{b'=0}^{k-1} (2b' + 1) \times 2(k - b') = \sum_{i=1}^k (2i - 1) \times 2(k - i + 1)$

$$= 2 \sum_{i=1}^k \{-2i^2 + (2k + 3)i - (k + 1)\}$$

$$= -4 \sum_{i=1}^k i^2 + 2(2k + 3) \sum_{i=1}^k i - 2(k + 1) \sum_{i=1}^k 1$$

$$= -4 \cdot \frac{1}{6} k(k + 1)(2k + 1) + 2(2k + 3) \cdot \frac{1}{2} k(k + 1) - 2(k + 1) \cdot k$$

$$= \frac{1}{3} k(k + 1) \{-2(2k + 1) + 3(2k + 3) - 2 \cdot 3\} = \frac{1}{3} k(k + 1)(2k + 1)$$

ここで, $k = \frac{n + 1}{2}$ であるから $k + 1 = \frac{n + 3}{2}$, $2k + 1 = n + 2$

ゆえに $P(n) = \frac{1}{3} \times \frac{n + 1}{2} \times \frac{n + 3}{2} \times (n + 2) = \frac{1}{12} (n + 1)(n + 2)(n + 3)$

9 ○ 点 P から $\triangle ABC$ の xy 平面への射影の面積 [2000]

座標空間内に 4 点 $P(3, 1, 4)$, $A(1, 2, 3)$, $B(1, 1, 2)$, $C(2, 1, 1)$ がある. 直線 PA と xy 平面の交点を A' , 直線 PB と xy 平面の交点を B' , 直線 PC と xy 平面の交点を C' とする.

- (1) $\triangle ABC$ の面積を求めよ.
- (2) $\triangle A'B'C'$ の面積を求めよ.

解説

(1) $\overrightarrow{AB} = (0, -1, -1)$, $\overrightarrow{AC} = (1, -1, -2)$ であるから

$$|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{0^2 + (-1)^2 + (-1)^2} = \sqrt{2}, \quad |\overrightarrow{AC}| = \sqrt{1^2 + (-1)^2 + (-2)^2} = \sqrt{6}$$

$$\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 0 \cdot 1 + (-1) \cdot (-1) + (-1) \cdot (-2) = 3$$

$$\text{よって } \cos \angle BAC = \frac{\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}}{|\overrightarrow{AB}| |\overrightarrow{AC}|} = \frac{3}{\sqrt{2} \cdot \sqrt{6}} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

ゆえに $0^\circ < \angle BAC < 180^\circ$ であるから

$$\sin \angle BAC = \sqrt{1 - \cos^2 \angle BAC} = \sqrt{1 - \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2} = \frac{1}{2}$$

$$\text{したがって } \triangle ABC = \frac{1}{2} |\overrightarrow{AB}| |\overrightarrow{AC}| \sin \angle BAC$$

$$= \frac{1}{2} \cdot \sqrt{2} \cdot \sqrt{6} \cdot \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

別解 $\triangle ABC = \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{AB}|^2 |\overrightarrow{AC}|^2 - (\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{(\sqrt{2})^2 (\sqrt{6})^2 - 3^2} = \frac{\sqrt{3}}{2}$

- (2) O を原点とする.

直線 PA 上の点を $P_1(x, y, z)$ とすると

$$\overrightarrow{OP_1} = \overrightarrow{OP} + t\overrightarrow{PA} \text{ (} t \text{ は実数) と表される.}$$

$$\text{これから } (x, y, z) = (3, 1, 4) + t(-2, 1, -1) \\ = (3 - 2t, 1 + t, 4 - t)$$

ゆえに $x = 3 - 2t$, $y = 1 + t$, $z = 4 - t$

$z = 0$ とすると, $4 - t = 0$ から $t = 4$

このとき $x = -5$, $y = 5$ よって $A'(-5, 5, 0)$

同様に, 直線 PB 上の点を $P_2(x, y, z)$ とすると

$$\overrightarrow{OP_2} = \overrightarrow{OP} + s\overrightarrow{PB} \text{ (} s \text{ は実数) と表される.}$$

$$\text{これから } (x, y, z) = (3, 1, 4) + s(-2, 0, -2) \\ = (3 - 2s, 1, 4 - 2s)$$

ゆえに $x = 3 - 2s$, $y = 1$, $z = 4 - 2s$

$z = 0$ とすると, $4 - 2s = 0$ から $s = 2$

このとき $x = -1$, $y = 1$ よって $B'(-1, 1, 0)$

更に同様に, 直線 PC 上の点を $P_3(x, y, z)$ とすると

$$\overrightarrow{OP_3} = \overrightarrow{OP} + u\overrightarrow{PC} \text{ (} u \text{ は実数) と表される.}$$

$$\text{これから } (x, y, z) = (3, 1, 4) + u(-1, 0, -3) \\ = (3 - u, 1, 4 - 3u)$$

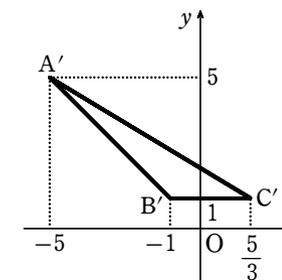
ゆえに $x = 3 - u$, $y = 1$, $z = 4 - 3u$

$z = 0$ とすると, $4 - 3u = 0$ から $u = \frac{4}{3}$

このとき $x = \frac{5}{3}$, $y = 1$ よって $C'\left(\frac{5}{3}, 1, 0\right)$

ゆえに, 右図から

$$\triangle A'B'C' = \frac{1}{2} \left\{ \frac{5}{3} - (-1) \right\} (5 - 1) = \frac{16}{3}$$



10 ○双曲線と直線の2交点の中点の軌跡の証明 [2000]

座標平面上に、双曲線 $C: x^2 - y^2 = 1$ と点 $A(2, 0)$ がある。点 A を通る直線 l が双曲線 C と異なる2点で交わるとき、この2つの交点を結ぶ線分の中点 P は曲線 $(x-1)^2 - y^2 = 1$ 上にあることを証明せよ。

解説

[1] l が x 軸に垂直であるとき

l の方程式は $x=2$ で、双曲線 C は x 軸に関して対称であるから、 l と C の2つの交点を結ぶ線分の中点 P の座標は $(2, 0)$ である。

この点は、曲線 $(x-1)^2 - y^2 = 1$ 上にある。

[2] l が x 軸に垂直でないとき

l の方程式は m は実数として $y=m(x-2)$ とおける。

l と C の方程式から $x^2 - m^2(x-2)^2 = 1$

すなわち $(1 - m^2)x^2 + 4m^2x - (4m^2 + 1) = 0 \dots\dots ①$

l と C が異なる2点で交わるとき、方程式①は異なる2つの実数解をもつから

$1 - m^2 \neq 0$ で、①の判別式を D とすると $D > 0$

$$\text{ここで } \frac{D}{4} = (2m^2)^2 - (1 - m^2)\{-4m^2 + 1\} = 3m^2 + 1$$

ゆえに、 $D > 0$ は常に成り立つ。

したがって、 m の条件は $1 - m^2 \neq 0$ から $m \neq \pm 1$

このとき、①の2つの実数解を α, β とすると、解と係数の関係から

$$\alpha + \beta = \frac{4m^2}{m^2 - 1}$$

2つの交点を結ぶ線分の中点 P の座標を (X, Y) とおくと

$$X = \frac{\alpha + \beta}{2} = \frac{2m^2}{m^2 - 1}$$

また、 P は直線 l 上の点であるから

$$Y = m(X - 2) = m\left(\frac{2m^2}{m^2 - 1} - 2\right) = \frac{2m}{m^2 - 1}$$

したがって

$$\begin{aligned} (X-1)^2 - Y^2 &= \left(\frac{2m^2}{m^2-1} - 1\right)^2 - \left(\frac{2m}{m^2-1}\right)^2 \\ &= \frac{(m^2+1)^2 - 4m^2}{(m^2-1)^2} = \frac{(m^2-1)^2}{(m^2-1)^2} = 1 \end{aligned}$$

よって、点 P は曲線 $(x-1)^2 - y^2 = 1$ 上にある。